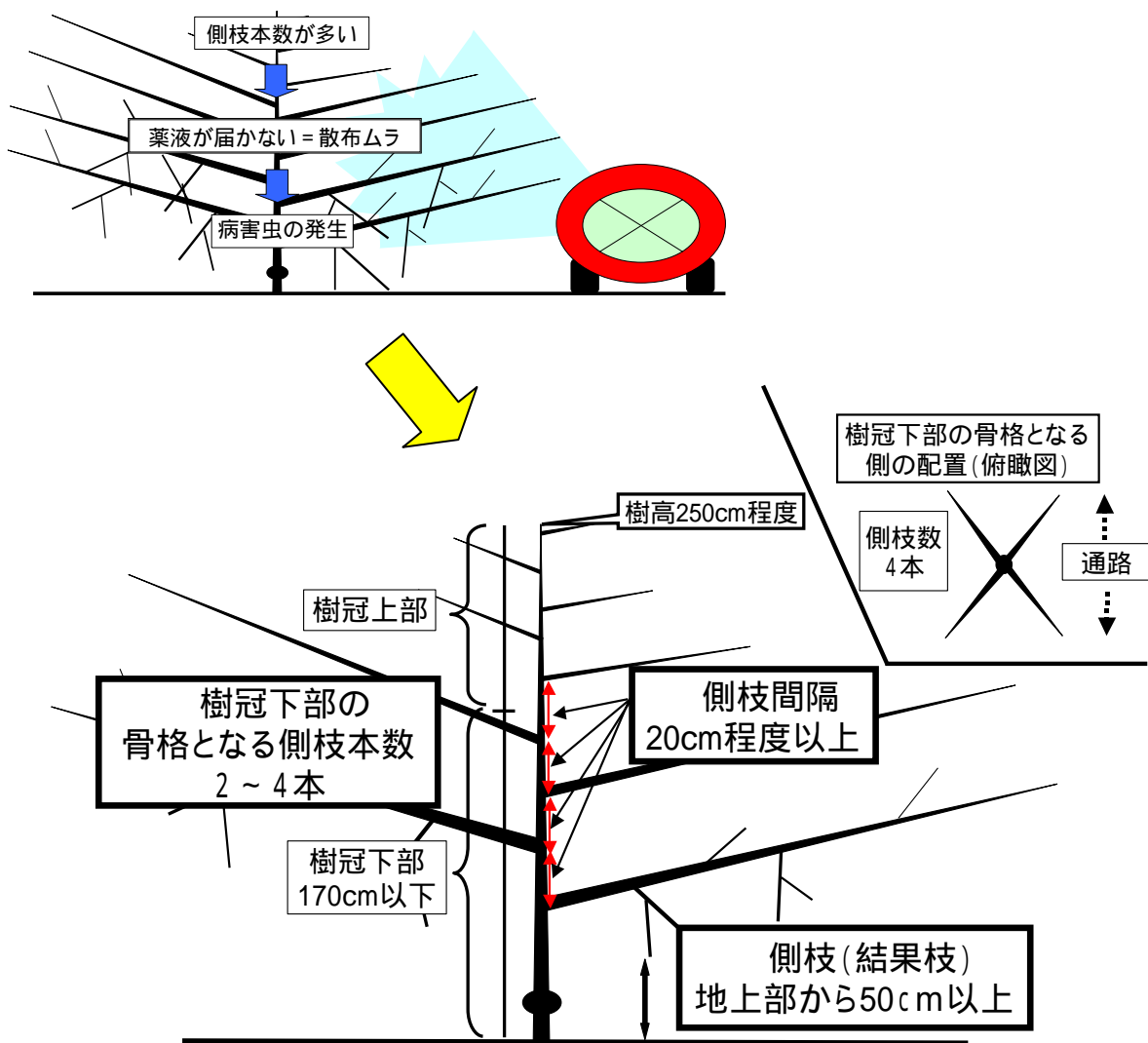


リンゴわい性台樹における薬液到達性の高い樹体構成

【1 成果の内容】

- (1) 薬液到達性の高いリンゴわい性台樹は、樹冠下部（170cm以下）の骨格となる側枝（直径5cm以上）を2～4本で、側枝発出部の間隔をおよそ20cm以上あげ、地上高50cm以上に側枝（結果枝）を配置する樹体構成です。
- (2) 骨格となる側枝本数を2～4本とした場合、収量は少なくなりますが、作業時間が減少するため、労働生産性が向上します。



【2 留意事項】

一挙に側枝本数を減らすと、樹勢のバランスを崩すため、主幹や側枝の太さなどを考慮し、2～3年かけて剪除します。